

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 色水いろいろ／品川区立大井倉田保育園

色水遊びは、子どもたちが大好きな遊びのひとつです。それぞれの園で、子どもたちは、どのような素材を使って色水遊びを楽しんでいるのでしょうか？保育者は、どのようなことを大切にして環境を工夫していますか？

色が出る様々な素材と出会い、感じたこと、気付いたこと、不思議に思ったことなど、子どもたちのつづやきに保育者が注目して寄り添うことを大切にしている事例をご紹介します。



### ● 色水遊び／3～5歳児

#### ✦ 8月4日「絵の具の色水」5歳児

保育者は、子どもたちと一緒にタライや2ℓペットボトルに絵の具で作った色水を準備（赤・青・黄）する。子どもたちは小さい透明カップを使い、色を混ぜ合わせ「自分の色水」を作り、混ぜることができる色を楽しんでいた。

Aちゃん：「薄い色の絵の具はきれいじゃないよ、濃い色はきれい」と、たっぷりの水を入れ色が薄い色水を作った。

保育者：「どうして？」

Aちゃん：「濃い緑はきれいだけど、薄い緑はなんか汚い」

#### ✦ 8月5日「食紅色水」4歳児

保育者は、子どもたちと一緒に食紅を利用して赤・青・黄の色水を作る。子どもたちは、絵の具の濁った水と食紅の透きとおった水の透明度の違いに気付く。ペットボトルから小さい透明カップや傘袋に色水を入れて楽しむ。

Bちゃん：「キラキラ水だよ」と青色の水が入ったカップを日にかざして言う。

Cちゃん：「こうすると光るんだよ、でも（目の高さまで降ろして）こうすると光らないんだよ」と言う。ビニール製の傘袋に色水を入れて結び、それを腸詰めのように作る。それを持って、次はどの色を入れようかと探しながら、嬉しそうなお表情で様々な色の色水の周りを歩きまわっている子どもたち…

Dちゃん：「一番下の赤い水で下（地面）に、赤く（映っている）なった」と影に興味を示した。



#### ✦ 8月6日「温かい色水」3歳児

子どもたちは、傘袋に入れた色水を園庭に用意した「布団干しパイプ」に垂らすように飾っていた。中の色水の重みで落ちてしまった傘袋を子どもたちが見付け触っていた。

Dちゃん：「○○くんの隣に飾るね」

Eちゃん：「あっ！僕の落ちちゃった…」（落ちた傘袋を拾おうとした時に）「でも、こっち（○○くんの水を入れた傘袋）より温かい方がいいな」

Dちゃん：「土の上だから温かいんだね」

## ✿ 8月7日「白い不思議な紙」4歳児

連日、食紅や絵の具で色水を作っていた子どもたち…。タライから色水を使う内に無くなってしまい、保育者も子どもたちと一緒に色が出る物を探す。教材庫でクレープ紙を見付け、水を張ったタライや試飲用のカップに入れる。

Fちゃん：「混ぜてみたら水が赤色になったよ」

保育者：「本当だ！綺麗な色だね」試飲用のカップやペットボトルから色が抜けたクレープ紙を取り出す。

Eちゃん：「でも、これ（クレープ紙）は白いね」

Fちゃん：「水に溶けたから白くなったんだよ」

Gちゃん：「よく混ぜるとたくさん色が出るよ」



## ✿ 8月7日「色の付いた泡を発見！！」4歳児

クレープ紙から色が出るのが分かった子どもたち…。「全部の色を混ぜてみよう」という発想に繋がる。実際に混ぜてみると茶色や黒色になり「コーラみたい」と喜ぶ。ペットボトルの中に水泡が見られたのでペットボトルを振り、さらに水泡を作る。

Hちゃん：「見て！水は茶色なのに泡は青いよ！」

保育者：「どうやって作ったの？」

Hちゃん：「こうやってね」と、振って見せる。

## ✿ 8月8日「朝顔の色水 1」4歳児

絵の具や食紅、クレープ紙やリボンを使って色水遊びを経験した子どもたちが、次の週に園庭に咲いた朝顔を発見する。「これは、色水にできるよね」「れもん（3歳クラス）の時にやったじゃん」と思い出し、朝顔の色水遊びが始まった。いつものように色水作りに使おうと、水の入ったペットボトルを持ち上げた時ペットボトルの底の水色を発見。持ち上げて底を見ると、色は透明。不思議さに、首をかしげ何度も見比べていた。

Jちゃん：「先生が、水を入れた時に絵の具の水色入れたんだ」

保育者：「入れてないよ」

Jちゃん：「じゃあ、どうしてかな？」「でも入れたよ」「きっと、グチョグチョって混ぜていないからじゃない？」

保育者：「入れていません」

Jちゃん：「不思議だよ…分かった！きっと、朝顔の水がチョロチョロって入ったんだよ」「でもどうして入ったんだろう。また不思議だなあー」



## ✿ 8月7日「朝顔の色水 2」5歳児

5歳児が、ペットボトルに入っている朝顔の色水の薄い濃いが分かり、水の分量を調整していると、上と横から見た時の色の違いに気付いた。一緒に作った友達と、上や横から見比べている。それに気付いた周りの友達も自分の色水の観察を始めた。

Kちゃん：「ねえねえ、上から見ると水色なのに横から見ると紫なんだよ」

保育者：「本当だ。何でかな？」

Kちゃん：「不思議だね。不思議なんだよ！」

保育者：「何でかなあー」

Lちゃん：「私のは上からも横からも紫だよ」

Kちゃん：「本当だ！何でかな？不思議ー」

保育者：「何でかな？」

Kちゃん：「だから、不思議なの！」

Mちゃん：「不思議じゃなくて、同じなのは濃いからじゃないの…」

Kちゃん：「へえーそうなんだあー」

Lちゃん：「私はたくさんクニクニしたからだね」



## ✦ 振り返って

- 絵の具、食紅、クレープ紙、朝顔などの素材や教材は、それぞれ色の出方や溶け方に違いがある。様々な素材や教材と関わったことで、子どもたちは、色水の濃度や透明度の違いに気付くことができた。
- 低い姿勢から見てみるなどの目線の高さを変えることや、光が当たる場所から見ることで新たな気付きや発見があった。子どもの気付きや発見に寄り添うには、保育者が実際に子どもの目線に立ってみることの大切さを改めて感じた。
- 「つぶやき」ながら「何で？何で？」という疑問が積み重なり、自分なりに考えてみようとする姿に繋がった。友達と同じ場で、感じたこと考えたことを伝え合ったり、「こうしたら」と教え合ったりすることで、更に多くの気付きが生まれた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム  
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」